

**Citation:** Freitas ERFS, Soares BGO, Cardoso JR, Atallah AN. Incentive spirometry for preventing pulmonary complications after coronary artery bypass graft. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 3. Art. No.: CD004466. DOI: 10.1002/14651858.CD004466.pub2.  
**CRG名:** Heart

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 4 April 2007  
**Clib issue No.;** N/U: 2007 issue 3; New review

**背景:** 冠動脈バイパス(CABG)後の術後罹病および死亡の主な原因は、術後肺合併症、呼吸機能障害および動脈血低酸素症である。インセンティブ・スパイロメトリーは、術後治療期間中のこれらの肺合併症を低減するために、機械装置(インセンティブ・スパイロメータ)を用いた治療法である。

**目的:** CABGを施行した成人における術後肺合併症予防について、インセンティブ・スパイロメトリーの効果を評価する。

**検索戦略:** コクラン・ライブラリ(2004年第2号)のCENTRAL、MEDLINE(1966年~2004年12月)、EMBASE(1980年~2004年12月)、LILACS(1982年~2004年12月)、Physiotherapy Evidence Database(PEDro)(1980年~2004年12月)、Allied & Complementary Medicine(AMED)(1985年~2004年12月)、CINAHL(1982年~2004年12月)およびDatabase of Abstracts of Reviews of Effects(DARE)(1994年~2004年12月)を検索した。参照文献を調べ、著者に問い合わせた。言語に制限は設けなかった。

**選択基準:** CABGを施行した成人における術後肺合併症予防について、インセンティブ・スパイロメトリーを何らかの予防的理学療法と比較したランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独立して、Cochrane Reviewers' Handbookのガイドラインを用いて試験の質を評価し、選択した試験からデータを抽出した。

**主な結果:** 参加者443例を対象とした4件の試験が本レビューに寄与した。インセンティブ・スパイロメトリーによる治療と陽圧呼吸法(持続気道陽圧呼吸(CPAP)、バイレベル気道陽圧(BiPAP)および間欠陽圧呼吸(IPPB))による治療または術前患者教育との間で、肺合併症(無気肺および肺炎)に有意差はなかった。インセンティブ・スパイロメトリーで治療した患者は、陽圧呼吸法(CPAP、BiPAP、IPPB)で治療した患者と比較して肺機能および動脈血酸素化が不良であった。

**レビューアの結論:** 個々の小規模な試験から、CABGを施行した患者において肺合併症を減少および肺機能に対する負の効果を低減する上でのインセンティブ・スパイロメトリーの利益を示すエビデンスはないことが示唆される。選択した研究の対象患者数があまり多くないこと、方法論的に不十分であること、および報告の質が不良であることから、これらの結果は慎重に解釈すべきである。CABG後のインセンティブ・スパイロメトリーによって利益を得る可能性のある患者を決定するためには、方法論的に高度に厳格で、検出力が適切な試験が必要である。

(監訳 江川賢一)  
翻訳公開日: 07年10月5日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。